

命に関わる脳卒中を 高度医療での確治療 薬物療法や開頭術 脳血管内治療を駆使



ポルトガルからの研修生のイザベルさんとの手術。

**時間と闘いながら治療
後遺症の回避にも努力**

高齢化と共に増え、日本人の死因の4位で年間約10万人が亡くなる脳卒中の治療に力を入れ、治療実績を重ねているのが『総合南東北



西村真実 院長 兼
脳神経外科部長
日本脳神経外科学
会認定脳神経外
科専門医、日本脳
神経血管内治療
学会認定脳血管

内治療専門医、日本脳卒中学会認定脳卒中専門医。脳卒中の外科学会代議員。脳神経外科手術と機器学会学術企画委員。

病院』の脳神経外科だ。部長を兼ねる西村真実院長を中心に専門医が脳卒中センターで急を要する重篤な症状にも最新の医療技術で対応する。

「脳卒中は、血管が血栓で詰まって起こる脳梗塞、脳出血、くも膜下出血をあわせた疾患の総称です。命に関わるだけでなく、命を救え

ても手足の麻痺や感覚障害、脳機能障害などが後遺症として残りまので、治療は時間との闘いになります。脳卒中センターでは、急性期脳梗塞に対するtPA（アルテプラゼ）という薬剤で血栓を溶かす薬物療法や血栓回収術、ナビゲーションや蛍光血管撮影とリンクした最新の顕微鏡下に頭



救急指定医療機関として、
24時間365日の医療体制

◎ 8:30～

Ⓜ 日曜日・祝日・年末年始（救急指定病院）



こちらからも
検索できます。



社会医療法人 将道会 **総合南東北病院**

そうごうみなみとうほくびょういん

☎ 0223-23-3151 ✉ info@minamitohoku.jp

Ⓧ 宮城県岩沼市の杜1-2-5

http://www.minamitohoku.jp/

蓋底手術のテクニクやバイパス術を併用した手術など脳血管内治療や開頭術を駆使し、治療の精度を高めています」

脳卒中センター長は、西村院長が長らく務めてきたが、2022年4月からは血管内治療のスペシャリスト竹村篤人医師が引き継いだ。

（ライター／斎藤 聡）